

# ティーチング・ポートフォリオ

大学名 人間総合科学大学

所属 看護学科

名前 藤木 眞由美

作成日 2026年5月1日

## 1. 責務（何を行っているか、何を果たしているか）

私藤木眞由美は 2026 年に保健医療学部看護学科の教員として着任した。今年度の担当と授業科目は以下のとおりである。各授業のシラバスは人間総合科学大学 WEB ポータル上で本学学生並びに教職員に公開されている。

### 【担当科目】

1. 大学生入門 （必修：1年）
2. 地域交流看護実習（必修：1年）
3. 精神看護援助論Ⅰ（必修：2年）
4. 精神看護援助論Ⅱ（必修：3年）
5. 精神看護学実習（必修：3年）
6. 統合実習（必修：4年）
7. 看護研究Ⅱ（必修：4年）

### 【学年担任】 1年生担当

学生さんたちが大学生活になじみ、学業の時間を確保した生活リズムが身につくように支援をしたい。また、看護師国家試験100%合格において、1年生で学修している科目と国家試験とのつながりが意識できるよう、定期的に履修科目の学修進度に合わせて復習ができるよう課題を提示し、知識の定着に向けた働きかけをしていく。また、学修のモチベーションが高まるように、学修相談窓口を設けてタイムリーに学修支援が受けられるように環境を整えていく。

### 【委員会】

1. 学修支援ワーキング
2. 研究委員会

## 2. 理念（教育に対する考え方）

「人間に対する深淵な教養を基に、自立と共生の精神をもって、保健医療に関する職業や社会の発展に貢献できる人材の育成を目的とする。」という教育理念に沿って、精神看護学領域での教育の充実を図りたいと考える。看護師として精神障がいのある人と関わる中で難しさを感じたことは、痛みや調子の悪さを言語的表現からではとらえきれないことであった。そのためその人を理解するには、言動の意味を知るために観察力を高めることや信頼関係を構築できるよう自身のかかわりを振り返ることが重要であると考えようになった。入退院を繰り返す方からは、慢性疾患であるため病氣と付き合っていくことことを一緒に考えることの重要性を学んだ。そして、退院に向けた支援の場面では、本人と家族のどちらも意見が大切でありながら家族の意見を優先することに葛藤があった。こういった背景から、対象理解において、病氣はその人の一部として捉え、より多くの強みに目を向けて全人的にとらえる努力をすることの大切さを伝えていきたいと考える。そしてその方の意思決定を尊重し、その人を取り巻く人々も含めてその人らしく生活ができるような支援が身につくような教育を目指している。併せて、学生個々が抱える課題・問題に目を向け、将来を見据えたサポートをして信頼される教育を心がけがける。

### 3. 方法（教育方法において大切にしていること）

近年の社会ニーズにより地域包括ケアシステムやチーム医療の推進などの医療提供体制の変化があり、看護師は多様な場で状況に応じた適切な対応ができる実践能力が求められるようになった。実践能力を高めるために、対象理解、生涯学習する力や協働する力などを養う必要がある。

教育方法において大切にしていることは、実践能力が身につくよう、授業においては授業毎でリフレクションペーパーを活用し、学生が理解できていることを承認し、疑問について解消するような対応を図っていく。また、発言を苦手とする学生が多いクラスの場合には、発言前に意見交換ができるような時間をつくることや、既習学習とのつながりを意識して知識の想起ができるような工夫をする。精神看護学に興味を持ってもらえるよう実習の様子や臨床経験を紹介したり、これまで取り組んだ研究の精神障がいのある方のきょうだいに関する研究成果を講義に活用することで、精神看護学領域での教育を充実させていきたいと考える。

臨地実習は、看護教育において、学内で学んだ知識・技術・態度を実際の医療現場で統合し、患者さんや施設の利用者さんとの関係を通して、「実践力」と「専門職としてのアイデンティティ」を養う重要な機会である。そのため、実習においては、実習指導者との連携・調整をこまめに行うこと、そしてロールモデルになるよう心がけていく。

### 4. 成果（学生さんからの評価に対して、学生さんの学修成果について）

今年度入職したため、本学の学生さんからの評価を得ていないが、授業ごとのリフレクションを通して、次の講義で反映できることは反映し、学生の学修が円滑になるように工夫する。次の講義には反映できるように工夫をし、学修しやすくなるように工夫を図ります。授業・実習評価を得たら、評価内容を真摯に受け止めて内容をブラッシュアップしていくようにします。

### 5. 目標（教育活動の中短期目標と達成時期）

2026年度末までに以下のことに取り組む

1. 学生の看護実践能力の育成に向けた、精神看護学教育のあり方を検討する

・精神看護学概論、精神看護援助論Ⅰ、精神看護援助論Ⅱ、精神看護学実習の科目内容につながりを保っているか、看護過程演習、実習事前課題の検討、国家試験出題基準と事前課題との関連などを検討する。

・学生の主体的な学習活動ができるような教授方法や内容を実施する

・医学書院WEBを活用して国家試験対策支援を計画する

・関連学会及び研修会への参加を通し、精神医療及び看護の新たな知見を得て授業に反映する

2. カリキュラム改正による実習スケジュール教員が新体制になったため、実習施設と連携を図り、学生の学びを深め、安全に実習を実施する

・実習前に施設と打ち合わせのほか、実習中にも実習指導者と連絡を密にとり課題があればその都度検討をする。

\* 表紙を含め、全体として、3～10ページ程度とします。

#### 【添付資料】

\* TPの記載内容を客観的に示すためのエビデンスとなる資料項目を箇条書きで列挙ください。

（シラバス、開発教材、学生アンケート等、特に特徴的なものを列挙し、必要に応じて、すぐに確認できるようにしておきます。